OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ヴィグ共同体の創設者崇敬
Author(s)	宮崎, 衣澄
Citation	大阪大学言語文化学. 2003, 12, p. 151-164
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77955
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ヴィグ共同体の創設者崇敬*

宮崎 衣澄**

キーワード：古儀式派共同体、創設者、列聖

Выговское общежительство (1694-1856) известно как духовный, хозяйственный и культурный центр беспобовцев - одного из двух основных направлений старообрядчества. Считается, что своему процветанию эта религиозная община во многом была обязана умелому руководству и усилиям её первых сподвижников - Петра Прокопьева, Данила Викулина, Андрея и Семёна Денисовых.

Факт существования специально составленного жития вышеперечисленных наставников, а также факт проведения в их честь специальных церковных служб наводит на предположение о канонизации первых четырёх наставников Выговского общежития.

Известно, что главной целью старообрядцев было сохранение традиций и канона русского дореформенного православия, в связи с этим гипотеза о канонизации первых церковных деятелей Выговской общины, в которой отсутствовали священники и церковная иерархия, на наш взгляд, требует дополнительного изучения. В представленной статье мы обратили внимание на уже существующие работы по данной теме, а также провели самостоятельное исследование основ и причин канонизации в Выге.

В результате мы пришли к выводу о том, что на последнем этапе существования Выговского общежительства, его первые наставники действительно пользовались особым почитанием, однако подробная информация о характере их канонизации не дошла до наших дней.

Отношение жителей выговской старообрядческой общины к своим первым сподвижникам, становится более понятно после знакомства с их изображениями на иконах и рисованном лубке, изготовленных в Выге. На них вышеназванные

---

* Почитание устроителей Выга (МИЯДЗАКИ Идзуми)

** 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

деятели рисовались без нимбов. Этот факт ставит под сомнение гипотезу о том, что первые выговские наставники были причислены к лику святых. Тем не менее иконописное изображение уже само по себе указывает на высокую степень их почитания. Возникает вопрос: чем оно было вызвано? Скорее всего, члены общины следовали канонам русского традиционного монашества, а именно примерам Соловецкого монастыря. Кроме того, судя по "чудесам" наставника Андрея, описанных Иваном Филиповым, жители Выга надеялись, что их наставники после своей смерти станут их покровителями и с их помощью община сможет получить особую божью благодать и защиту.

1．ヴィグ共同体の創設者とは

ロシア正教古儀式派の無司祭派に属するヴィグ共同体（1694-1856）は、文化的・経済的水準において他の古儀式派共同体から傑出していたことはよく知られている。国家正教側から出された教理に関する質問に答えた「ポモーリェの回答」（1722-23）は、共同体の高い論理的水準を示すものとして評価されている。その他、イコン、写本、ルボークなどにおいて独自の流派を形成した。このような共同体発展の礎は、その創設者たちによって築かれたものである[1)]。

ヴィグ共同体の創設者とは、具体的に誰を指すのだろうか。ヴィグ共同体の４代目僧院長のイヴァン・フィリッポフ（1661-1744）は、同共同体の歴史書「ヴィグ僧院の歴史」の中で、ピョートル・プロコピエフ（1673-1719）、ダニール・ヴィクリン（1653-1733）、アンドレイ・デニーソフ（1674-1730）、セミョン・デニーソフ（1682-1741）の４人を"богосочетанной четверицей"（神によって結び合わされた御四方）として、特別に崇敬される地位においている[2)]。はじめにこの４人について簡単にみてみたい。

オストロフスキーは、ヴィグ共同体の第一の創設者として、ダニール・ヴィクリンをあげている[3)]。ヴィグ共同体がダニール修道院と呼ばれたのも、彼の名に因んでいる。ダニールは、アンドレイ、ピョートルと共に、古儀式派の最初期を知る修道士コルニーリイ[4)]らを宗教上の指導者とした。また、ダニールはソロヴェツキー修道院の修道士イ

[1)]Вургафт С. Г., Ушаков И. А. Старообрядчество. Лица, события, предметы и символы. М., 1996. С. 69, Юхименко Э. М. (ред.) Неизвестная Россия. К 300-летию Выговской старообрядской пустыни. М., 1994. С. 6. 他。

[2)]Юхименко Е. М. Выговская старообрядческая пустынь. Духовная жизнь и литература. М., 2002. С. 287.

[3)]Островский Д. Выговская пустынь и ее значение в истории старообрядческого раскола. Петрозаводск. 1914. С. 28.

[4)]Корнилиево-Камельск 修道院で剪髪式を受けた者（постриженник）。（Юхименко Е. М. С. 16.）

グナーチイとも生活しており[5]、彼から多大な影響を受けていたようである。ダニールは初代ヴィグ僧院長（киновиарх）であり、「ポモーリェの回答」に最初に名を連ねている[6]。ポヴェネーツ出身のアンドレイ・デニーソフは、17歳で友と隠遁生活をはじめ、ダニールのヴィグ共同体設立を助けた[7]。その後２代目僧院長となり、同共同体を宗教面、経済面において確立させた。彼ほど古儀式派のために功績を残した者は、後にも先にもいないと評されるほどである[8]。ピョートル・プロコピエフはデニーソフの親戚で、教会規則に特に明るかったため、主に奉神礼の制定に関与したという。以上の３人がヴィグ共同体設立に直接関与していた。アンドレイの弟であるセミョン・デニーソフは、設立から３年経った1697年にヴィグ共同体に加わった[9]。セミョンは特に文学において才能を発揮し、「ソロヴェツキーの教父と苦行者の歴史」（1710年代）をはじめ、古儀式派信仰に関する多くの著述を残し、兄のアンドレイの死後３代目僧院長となった。そのため、ヴィグ共同体の信者は、以上の４人を、創設期に特に活躍した指導者として特に崇敬している。

では、次世代のヴィグ共同体信徒にとって、創設者はどのような存在であったのか。聖人として敬われていたのか、あるいは、たんに偉大な先駆者として、尊敬を集めていたのだろうか。「聖人」の有無を明確にすることは古儀式派共同体の特徴づけのために重要である。そこで、ヴィグ共同体創設者崇敬について、様々な研究者の論を詳細に分析すると共に、イコンや手書のルボークという芸術面からも考察する。

２．ヴィノクーロヴァ

ヴィグ共同体銅製イコン研究の第一人者である、ヴィノクーロヴァは、ヴィグの指導者の守護聖人を描いた銅製イコンに関する論文で、ヴィグの創設者崇敬について次のように述べている[10]。

“Почитание устроителей пустыни в своем кругу было столь значительным, что естественно привело к обозначению их в лике местночтимых на Выге святых*[11]”

---

[5] Островский Д. Выговская... С. 29.
[6] Вургафт С. Г., Ушаков И. А. Старообрядчество... С. 65.
[7] Островский Д. Выговская... С. 29.
[8] Островский Д. Выговская... С. 29.
[9] Лексинский летописец. / Публ.Срезневского В. И. // Материалы к истории и изучению русского сектантства и раскола. Под ред. В. Д. Бонч-Бруевича. СПБ., 1908. С. 276.
[10] Винокурова Э. П. Медные литые иконы патрональных святых Выговских наставников. // Художественный металл России. М., 2001.
[11] “僧院の創設者崇敬は、彼らの間で、非常に重要であったので、自然にヴィグの地方で崇敬される聖人の外貌で彼らを表示することになった。〔訳—I.M.〕ロシア正教会の聖人には、ロシア全体の聖人と地方の聖人がある。地方の聖人は、地方の、特に遺骸が収められている修道院や教区の教会と密接に結びついている。地方聖人であっても、全体の聖人であっても、毎年記憶の日を祝い、命日に特別の奉神礼を行う。

そして、ヴィグ指導者の庇護聖人の銅製イコンが作られたのは、指導者が聖人の列に加えられる前のことであるとしている[12]。ヴィノクーロヴァは、ヴィグ共同体の創設者（ダニール・ヴィクリン、ピョートル・プロコピエフ、アンドレイ・デニーソフ、セミョン・デニーソフ）が、ヴィグ共同体において聖人の列に加えられたとする根拠に、オストロフスキーとドゥルジーニンの論文の引用と、手書のルボークを挙げている[13]。しかし、本当にヴィグ共同体の創設者は、次世代の同共同体信者によって、聖人の列に加えられたのだろうか。次に、ヴィノクーロヴァが挙げた論文等を分析することで、この問題をさらに検討する。

2．1．オストロフスキー

ペトロザヴォーツクの司祭で、ヴィグ共同体から撤去された遺物の管理者であったオストロフスキーは、多くの文字資料に基づき、ヴィグ共同体の歴史についての論文「ヴィグ僧院と古儀式派の歴史における意義」を執筆している[14]。オストロフスキーは、ヴィグ共同体の創設者崇敬について、次のように述べている。

“Выговцы не только возвели в сонм святых некоторых из прежде бывших расколоучителей, но удостоили по-видимому этой высокой чести и своих первых настоятелей?Данила, Андрея, Семена и 《екклесиарха》 Петра[15]”.

オストロフスキーは、ヴィグの最初の指導者が列聖されたことを示す確たる資料はない、としながらも、創設者が列聖されたであろうと考える、マカーリーの論を引用し、支持している[16]。そこで、マカーリーの論文「古儀式派の名で知られるロシア分離派の歴史」[17]に立ち戻って検討する必要がある。

モスクワ府主教で、神学者、教会史家であったマカーリー(1816-1882)は、フィリッポフを引用して、ヴィグ共同体の創設と繁栄に特に貢献した、ダニール、ピョートル、ア

（Аверинцев С. С.（глав. ред）Христианство. энциклопедический словарь. Т. 1. С. 674.）

[12] “〔銅製イコンが制作されたのは—I.M.〕彼ら〔創設者〕の没後で、かつ「列聖」の前であろう。列聖後は、庇護聖人ではなく、新しい「長老（старцев）」自身を、イコノスタシスに置くことが可能となるので、庇護聖人の意味はなくなってしまうのではないか（中略） 彼も〔セミョン・デニーソフ—I.M.〕ヴィグで加えられた聖人の中に入っているので、「列聖」は彼の生前、つまり 1741 年以前にはありえない。”（Винокурова Э. П. Медные... С. 209.）しかし、現存するヴィグの銅製イコンに、創設者自身を描いたものは見られない。

[13] “19 世紀初頭のルボークには、「列聖」された 4 人の人物すべてが一緒に描かれており（後光はないものの）、「列聖」の興味深い資料と思われる。”（Винокурова Э. П. Медные... С. 213. 注 34.）オストロフスキー、ドゥルジーニンの引用—（Винокурова Э. П. Медные... С. 201.）

[14] 注 3 参照。

[15] “ヴィグの人々は聖人の列に、以前の一部の古儀式派指導者を加えたのみならず、この高い名誉を自らの最初の指導者—ダニール、アンドレイ、セミョン、ピョートルにも与えた。〔訳—I.M.〕” —Островский Д. Выговская... С. 57.

[16] Островский Д. Выговская... С. 58.

[17] Макарий. История русского раскола, известного под именем старообрядчества. СПБ., 1855.

ンドレイ、セミョンにそれぞれ賞賛の呼び名があり、この４人をまとめて、четверица богосочетанная и четырем Евангелистом равночисленнiи などと呼んでいたと記している[18]。

この表現から、４人の創設者が篤く崇敬されていたことが分かるが、聖人の列に加えられていたとするのは早計である。しかし、マカーリーは、いくつかの根拠を挙げて、これら４人がおそらく列聖されたと推測している[19]。まず、彼らにそれぞれ特別な奉神礼（служба）があって、そこで「克肖者（преподобные отцы）」と呼ばれている[20]。これは、修道士出身の聖人に向けて用いられる呼称である。マカーリーが、創設者の礼拝が行われたと指摘している日は、創設者と同名である庇護聖人の祝日である。ダニールは預言者ダニール（10月31日[21]）、アンドレイはアンドレイ・ストラチラト（８月19日）、ピョートルは使徒ペテロ（１月 16 日）、セミョンはシメオン・ストルプニク（５月 24 日）の祝日である。

ここで、ロシア正教会における列聖を見ておきたい。正教会の『キリスト教辞典』によると、ロシア正教会が自らの聖人の列に加えるには、一般に次の条件が必要とされる。生前、もしくは死後に奇跡を起こすこと、遺骸が腐らないこと（必要条件ではない）である[22]。そして、列聖されると、祝日が定められ、奉神礼がなされる。

なるほど、ヴィグの創設者には、同名の庇護聖人の祝日を祝う、特別の記憶の日があるが、これは創設者に限られたことではない。例えばイヴァン・フィリポフには金口のイオアンの祝日（１月30日）、第５代僧院長マヌイル・ペトローフには殉教者マヌイル・ハルキドンスキー（６月17日）の祝日にというように、僧院長の健康と長寿を、同名の庇護聖人の祝日に祈る習慣が、1720年代からヴィグ共同体で始まり、共同体の歴史を通して続けられたという[23]。

つまり、創設者が特に崇敬されていたことは疑う余地がないが、聖人の列に加えられたかどうかについては、さらに検討する必要があるだろう。

２．２．ドゥルジーニン

前述のように、ヴィノクーロヴァは、ドゥルジーニンの論文も自説の根拠にしている。

---

[18]「神によって結び合わされた御四方、四福音書記者に等しい方々」（Макарий. История... С. 254.）

[19] “В последствии всю эту четверицу Выговцы, вероятно, причли к лицу святых” (Макарий. История... С. 254. 注 455.)

[20]Макарий. История...С. 254. 注 455.

[21]ヴィノクーロヴァは、マカーリーを引用したオストロフスキーの論文について、10月30日の間違いであろうと指摘している（Винокурова Э. П. Медные... С. 211. 注 10.）。事実、預言者ダニールの祝日は10月30日である。

[22]Аверинцев С. С. (ред.) Христианство.Энциклопедический словарь. Т. 2. С. 674.

[23]Юхименко Е. М. Выговская старообрядческая пустынь... С. 310.

ドゥルジーニン（1859-1936）は、自身古儀式派信徒で、ヴィグ共同体の写本やイコン等を多数収集し、初めてその独自性を認めた研究者である。彼は、ヴィグ共同体のイコンの特徴を述べる際に、創設者のイコン描写に言及している。

“Говоря об иконах, надо сказать также об иконописных изображениях Выгорецких《святых》. На Выге были канонизованы Даниил Викулин, Петр Прокопьев, Андрей и Семен Денисовы, Корнилий и Виталий.[24]”

このように、ドゥルジーニンは、ヴィグ共同体の創設者を、括弧つきで聖人と記している。また、ドゥルジーニンは、ヴィグ共同体の創設者の４人以外に、彼らの宗教上の指導者であったコルニーリイやヴィターリも、ヴィグにおいて聖人の列に加えられたとしている。先のマカーリー、オストロフスキーの論と比較すると、彼等が列聖について、“恐らく（вероятно）”と述べているのに対して、ドゥルジーニンは、「聖人の列に加えられた（канонизованы）」と明記しているのである。しかし、そのためのいかなる説明も根拠も記していないため、ドゥルジーニンの論からの検討は困難である。

次に、近年の主要なヴィグ共同体の文学研究者であるユヒメンコの著書に着目し、宗教文学の観点から、創設者崇敬について検討したい。

３．ユヒメンコ

ユヒメンコは、これまでの女史のヴィグ共同体研究の総和である著書『古儀式派ヴィグ僧院』[25]において、ドゥルジーニン等の収集に、自ら発掘した新しい文字資料を加えた膨大な一次資料を分析することによって、ヴィグ共同体の宗教文学の全体像を明らかにすると共に、共同体の宗教生活の実態を解明している。ユヒメンコは、ヴィグ共同体の創設者崇敬について、様々な時代に制作された 73 の追悼文（надгробные слова）を分析し、創設者に対する世代ごとの意識の変遷を明らかにしている。

追悼文は、ピョートル・プロコピエフ(1719 年没)の没後 40 日目にアンドレイ・デニーソフが、《слово надгробное Петру Прокопьеву》を書いたことから、始まった[26]。追悼文には、１）没後すぐに作られるもの、２）没後 40 日後につくられるもの、３）ある程度時間が経ってから作られるもの、があるという[27]。そして、亡くなった僧院長に対す

---

[24] “イコンについて言えば、ヴィグの「聖人」のイコン描写についても触れなければならない。ヴィグでは、ダニール・ヴィクリン、ピョートル・プロコピエフ、アンドレイ、セミョン・デニーソフ、コルニリー、ヴィタリーが聖人の列に加えられている。”〔訳—I.M.〕Дружинин В. Г. К истории крестьянского искусства XVII-XIX вв. в Олонецкой губернии（художественное неследие Выговской поморской обители）// Известия Академии Наук СССР. М., 1926. С. 1482.

[25] Юхименко Е. М. Выговская старообрядческая пустынь. Духовная жизнь и литература. М., 2002.

[26] Юхименко Е. М. Выговская старообрядческая пустынь... С. 338.

[27] Юхименко Е. М. Выговская старообрядческая пустынь... С. 390.

る追悼文は、毎年ではないにしろ、しばしば創作された。しかし、1740 年代後半～70 年代にかけて、ヴィグ創設者のために創作された追悼文は現存していない。イヴァン・フィリポフのために追悼文を作ったのは、ヴァシーリー・ダニーロフ[28]とマヌイル・ペトロフのみであったという。ユヒメンコは、現代まで伝わらないものがあると考えても、減少の傾向にあったことは明らかである、としている[29]。

ユヒメンコは、1770 年代末～80 年代初めに、ユヒメンコは、ヴィグ共同体の創設者崇敬に新たな局面が生まれたとする。1780 年頃、ティモフェイ・アンドレエフ[30]が、使徒パウロのユダヤ人への手紙の一節である《Помните наставники ваша...》「あなたがた（に神の言葉を語った）指導者たちのことを思い出しなさい[31]」（ヘブライ人への手紙 13. 7）を引用したことに、ヴィグの創設者に対する新たな姿勢の象徴を見ている[32]。1770 年代末から、再び創設者の記憶の日に、追悼文が作られるようになっているのである。特にアンドレイ・デニーソフに対して、1777～1787 年の間に創作された追悼文が５つ伝えられている[33]。その後、アンドレイ・ボリソフ(1734 -1791)の時代には、創設者の追悼文集が編まれ、18 世紀末には、アンドレイ、セミョン・デニーソフと、イヴァン・フィリポフの伝記が作られた[34]。また、ヴィグには《новым Российским страдальцем（新しいロシアの受難者へ)》の奉神礼が存在しており、1780 年代には、さらにもう一つ《новым страдальцем общая служба（新しい受難者への全体の奉神礼)》と、コルニーリイとアンドレイ・デニーソフのための奉神礼が創作されたという[35]。

つまり、1770～80 年代に創設者崇敬が高まり、伝記や奉神礼など、ヴィグ共同体において、聖人に匹敵するほどの崇敬をうけていたことが分かる。しかし、ユヒメンコは、あくまでも客観的に宗教文学を分析するという姿勢から、創設者が聖人の列に加えられたかどうかについては言及していない。すなわち、ヴィグ共同体では、創設者崇敬は高まったが、聖人の列に加えられたことに対する明確な資料はない、と考えることができるだろう。

---

[28] ヴィグの能筆家、作家。
[29] Юхименко Е. М. Выговская старообрядческая пустынь... С. 347.
[30] ヴィグ共同体の指導者、作家。
[31] 『聖書（新共同訳)』、日本聖書協会、1997。
[32] Юхименко Е. М. Выговская старообрядческая пустынь... С. 348.
[33] Юхименко Е. М. Выговская старообрядческая пустынь... С. 349.
[34] アンドレイ・デニーソフ伝は、アンドレイ・ボリソフによって、セミョン・デニーソフ伝はチモフェイ・アンドレエフによって執筆されたと考えられている。(Юхименко Е. М.　Выговская старообрядческая пустынь... С. 407,458)
[35] Юхименко Е. М. Выговская старообрядческая пустынь... С. 354.

4．美術における創設者の描写

4．1．イコン

次に、ドゥルジーニンが言及している、創設者を描いたイコン描写に着目したい。ヴィグ共同体で制作されたイコンは、文字資料によって高い芸術性が指摘されているにもかかわらず、ごく少数しか現存していない。その中で、モスクワ歴史博物館が所蔵している、アンドレイ・デニーソフのイコンは非常に興味深い（図１）。アンドレイは、上半身の立像で描かれている。顎髭を円状にたっぷりと生やし、前髪と横髪が巻き毛であることが特徴である。黒い上着を着て、右手の人差し指で本を指しながら、目は観者をまっすぐ見据えている。デニーソフの描写は、二重円の内側に配置されており、四角の板の四隅に描かれる花のモチーフは、同じくヴィグ共同体で制作された木彫、銅製イコンを想起させる。このイコンは19世紀に属しており、ヴィグ共同体の閉鎖が1856年であることから、共同体の最後の時期に制作されたと考えられる。この他、ペテルブルグのロシア文学研究所に、同じくアンドレイ・デニーソフを描いたイコン画の儀軌がある（図２）。巻き髪や顎鬚など、歴史博物館のイコンと、特徴が同じであり、一見して同一人物の描写であることが分かる。素描のデニーソフも、まっすぐ観者を見据えているが、右手の人差し指は本でなく、巻物の紙を指している[36]。この描写は18世紀に属している。デニーソフは1730年に亡くなっており、生前に描かれたとは考えにくく、18世紀中後期に制作されたと思われる。ペテルブルグの国立宗教史博物館に、ヴィグ共同体の創設者４人に修道士コルニーリイ、フィラレットを加えた６人を描いた儀軌が所蔵されている（図３）。ピョートル、セミョン、アンドレイの３人とダニール、修道士コルニーリイ、フィラレットの３人が左右に分かれて、



図１．A.デニーソフ



図２．A.デニーソフ

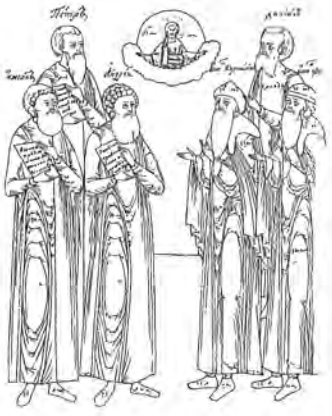


図３．ヴィグの創設者、修道士コルニーリィ、フィラレット

[36] 素描では、デニーソフは、紙を左手で指しているが、イコンの儀軌の素描という性格上、裏から見るべき物もあり、そうすると右手で紙を指していることになり、この方が自然であろう。

それぞれ中央を向いた全身立像で描かれている。中央上部の雲上のキリストが、双方に祝福を与えている。ピョートル、セミョン、アンドレイの３人は手に持った紙を指で指しているのに対して、残りの３人は彼らに向き合っていて、右手で２本指の十字架の印を示している。アンドレイの人物描写の特徴は、先と同じく、巻き髪であり、弟のセミョンも巻き髪で描かれている。また、アンドレイが同じく右手の人差し指で紙を指しているが、ピョートルとセミョンは右手の指をそろえて指している。

以上３点のヴィグ共同体創設者の描写で、注目すべきことは、すべてのイコンや儀軌において、創設者に後光が描かれていないことである。ここで、長司祭アヴァクーム（1620-1682）のイコンに着目したい。長司祭アヴァクームは、総主教ニーコンが推し進めた教会改革に最後まで反対し、非業の死をとげており、信仰のため殉教した者として、あらゆる宗派の古儀式派信徒によって崇敬されている。アヴァクームが最初にイコンに描写されたのは、17 世紀末であるとされており[37]、没後まもない時期である。制作地は不明であるが、18 世紀初頭のアヴァクームのイコンが、歴史博物館に所蔵されている（図４）。アヴァクームは全身立像で、キリスト、生神女マリア、天使の方を向いて、２本指の十字架の印を示している。アヴァクームは、священномученик（聖なる殉教者）と表現されて、


図４．アヴァクーム

後光が描かれており、この時代にすでに、アヴァクームが古儀式派信徒によって、聖人として崇敬されていたことを示唆している。後光と、священномученик の銘は、いずれもヴィグの創設者に為されなかったものである。その他、ロシア国立図書館所蔵のイコン画儀軌においても、アヴァクームには後光が加えられている。従って、アヴァクームは、古儀式派宗派によって正式に聖列される以前から[38]、古儀式派信者にとっては、聖人と同じ列の、崇敬の対象になっていたと考えられる。

デニーソフら、ヴィグ共同体創設者のイコンに後光が描かれなかったということは、イコン画家が、ヴィグの創設者を、通常の意味の聖人としてはみなしていなかったためと考えられる。しかし見方を変えて、肖像画でなく、テンペラ画のイコンに創設者を描いた点に注目すると、崇敬すべき偉業者という枠を越えた存在であったといえよう。そして、アヴァクーム崇敬と比較すると、ヴィグ共同体創設者の崇敬は、人間としての尊敬により近かったと推測される。

---

[37] Вургафт С. Г., Ушаков И. А. Старообрядчество... С. 8.
[38] 長司祭アヴァクームは、ロシア正教古儀式派の司祭派に属するベロクリニッツァ教会において、1916 年に正式に聖人の列に加えられている。（Вургафт С. Г., Ушаков И. А. Старообрядчество... С. 8.）

4．2． 手書のルボーク

次に、ヴィグ創設者の、手書のルボークにおける描写に着目する。手書のルボークは、ヴィグ共同体で始まり、18 世紀中期から 19 世紀に広まった[39]。ヴィグ共同体で制作されたとされる、ヴィグ僧院長を描いたルボークは、数点伝わっている。その中で、ヴィノクーロヴァは、ダニール、ピョートル、アンドレイ、セミョンを描いた 19 世紀初期のルボークをとりあげて（図５）、後光はないものの、聖人の列に加えられたことを示す興味深い資料であると述べている[40]。しかし、ヴィグ共同体のものとして、創設者のルボークと同じ色調とスタイルで、ヴィグの６代目僧院長ニキーフォル・セミョーノフ（1684-1774）とレクサの指導者セミョン・チトーフ（-1791）を描いた 19 世紀中期のルボークが伝えられている（図６）。また、ペチョーラで制作されたものではあるが、セミョン・デニーソフ、イヴァン・フィリポフ、ダニール・ヴィクリンの３者を描いたルボークもある（図７）。すなわち、ルボークからただちに創設者の列聖を断定するのも、やはり早計である。



図５．D.ヴィクリン、P.プロコピエフ、A.,S.デニーソフ



図６．N.セミョーノフ、S.チトーフ

手書のルボークと、前述のイコン描写とを比較すると、アンドレイの人物描写の特徴が一致している。しかし、図３の儀軌では、アンドレイのみが右手の人差し指で紙を指していたが、図５のルボークでは、アンドレイに加えてセミョンも人差し指で指していて、ピョートルとダニールは２本指の十字架の印で紙を指し示している。つまり、イコン、手書のルボークの描写に共通して、アンドレイのみが、常に右手の人差し指で紙もしくは本をさしているのである。さら



図７．S.デニーソフ、I.フィリポフ、D.ヴィクリン

[39] Итокина Е. И. Руский рисованный лубок конца XVIII- начала XX века. М., 1992. С. 5-7.
[40] Винокурова Э. П. Медные... С. 213. 注 34.

に、注目すべきことは、手書のルボークでも、イコンと同様、ヴィグの創設者や指導者に後光は描かれていない。従って、イコン画家とルボークの職人は相互に密接な関係があったといえるだろう。また、手書のルボークでは、創設者以外にも、特に敬われていた僧院長や指導者も描かれることがあり、イコンよりも描かれる対象の幅が広かったと考えられる。そして、制作年代を見ると、創設者を描いたイコンは 18 世紀中後期から 19 世紀に、ルボークは 19 世紀初期から中期に属しており、ユヒメンコが指摘している、1770 年代以降の創設者崇敬の高揚と符合している。

5．創設者の列聖とヴィグ共同体

このような宗教熱の高まりはどのような背景を持っているのだろうか。そもそも、ロシアの伝統的な修道院の創設者が列聖される例は多い。ロシア正教会総本山の一つである、聖三位一体修道院の創設者ラドネジのセルギー（1320 頃-1392）をはじめ、白海のソロヴェツキー修道院の創設者ゾシマ（1478 年没）とサヴァーチィ（1435 年没）も列聖されている。ヴィグ共同体のモデルにロシアの伝統的な修道院があったと考えられること、特にソロヴェツキー修道院を理想として、その後継者たらんとしていたことを考慮すると[41]、ヴィグ共同体においても、同共同体の創設と繁栄に大きく貢献した創設者に、聖人の列に並ぶほどの崇敬を寄せようとするのは、むしろ自然な動きと言える。

しかし、ロシア正教の伝統に忠実に従うならば、聖職者や教会の位階を持たないヴィグ共同体で、創設者を聖人の列に加えることは、明らかな矛盾となる。それでもなお、創設者を聖人に匹敵する存在とみなしたいという願望は確かにあった。創設者が没後に起こしたとされる奇跡も伝えられている。この奇跡によって、共同体信徒の意図や心情を照らし出すことはできないだろうか。イヴァン・フィリポフが同共同体の歴史書に記載し、オストロフスキーが“ある種の奇跡”と呼んだ、創設者アンドレイによる奇跡とは、次のようなものである[42]。

「1731 年、ヴィグに軍隊へ２倍の兵士を送るように要請が来た。彼等にとって苦しい時代だったので、この重い責務から逃れたいと考えていた。するとグトエフという姓のオロネツの古儀式派信徒のもとに、ある夜奇跡の幻が現れ、（中略）・・・〔グトエフは―I.M.〕全員が偉大な聖人のような白い法衣を着た、なみなみでない奇跡の男たちの集団がやって来るのを見た。グトエフのもとに見知らぬ男が近寄ってきて、以前のヴィグ僧院長に会いたいかどうか尋ねた。マルチン〔グトエフ―I.M.〕は、彼は私を知らないし、

---

[41] Юхименко Э. М. (ред.) Неизвестная Россия. К 300-летию Выговской старообрядской пустыни. М., 1994. С. 9.

[42] Островский Д. Выговская... С. 58,59. 注 5.

私は彼に会ったことがないので、どうやって彼のもとに行けばいいのか尋ねた。その男は、「心配するな。彼は君のことを知っているし、杖を持って先を歩いているので、彼が分かるだろう」と私に言った。（中略）イエスに祈りを捧げているアンドレイが私には見えた。するとアンドレイは私に言った。さあ今、モスクワで手にいれた、僧院の住人から兵士を募らないし、そして我々の拘束されていた兄弟も解放するという命令を携えて町（オロネツ）に行きましょう。（中略）幻は消え、その夜、モスクワから、ヴィグの労働者たちを解放し、ヴィグと他のスキトから兵士を募らず、取らないという命令が届いていたことが、次の日に分かった」

この奇跡は、ヴィグ共同体の創設者であるアンドレイが、同共同体の庇護者として、共同体の不幸や災いを解決してくれる存在であることを示唆している。聖人は、神の僕であって、神のように自らの力で我々を救うのではなく、神の前で、我々の庇護者としてとりなしをしてくれる、とされている。それ故、創設者を聖人と同等の位に置くことによって、共同体が困難に直面した時に、彼等の庇護者である創設者のとりなしによって、神の恩恵を授かることを願っていたと考えられる。また、庇護者を通じて為される奇跡の、その発生そのものが、神の恩寵を受けている、すなわち神による守りと後ろ盾があるということを証している。国家教会側から迫害を受ける立場にあった古儀式派信徒にとって、神によるご加護は、信仰の正統性を自他に証明する重要な手立てであっただろう。国家と教会の関係が密であるロシアにおいては、聖人や奇跡が、教会、ひいては政権を確立する上で大きな役割りを果たすことは、いわば一つの伝統でもある。例えば、イヴァン雷帝と府主教マカーリーは、国権と教権の確立と仕上げをねらって、短期間に多数の聖人を認めている[43]。つまり、ヴィグ共同体の信者が、創設者を聖人のようにみなしていた背景には、ロシアの伝統的な修道院の先例にならうと共に、創設者による庇護のもとに、共同体存続を確立し、古儀式派信仰の正統性を強調したいという意図と願望を込めていたと考えられる。

6．結語

ヴィグ共同体の創設者崇敬について、史料、イコン、ルボークの描写をもとに検討した結果、次のことがいえる。ヴィグ共同体では、創設者の死後しばらく経過した 1770 年代以降、創設者崇敬の傾向が高まり、追悼文や伝記、奉神礼が多く創作された。イコンやルボークにおいても、創設者が描かれるようになった。しかし、イコンでも、ルボークでも、後光が描かれず、列聖を示す明確な文字資料がないことから、創設者は、聖

[43] Аверинцев С. С. (глав.ред) Христианство. Энциклопедический словарь. Т. 1. С. 674.

人に匹敵する崇敬を受けていたものの、聖人の列に加えられたとみなすことは困難である。ヴィグ共同体の信者が、このように創設者を聖人に匹敵する存在と考えていた背景には、創設者を通して神の加護を得ることで、共同体の正統性を強調し、存続を願うという期待があったものと推察される。

《図版リスト》

図１．Андрей Денисов. Поморское письмо, XIX в. 39 x 32. ГИМ. (Юхименко Э. М. (ред.) Неизвестная Россия. К 300-летию Выговской старообрядской пустыни. М., 1994. С. 35.)

図２．Андрей Денисов, основатель Выговского общежительства. Прорись с изображения XVIII в. ИРЛИ. Древнехранилище, оп. 23, №129. (Маркелов Г. В. Святые древней Руси. Материалы по иконографии. Святые древней Руси в иконописных подлинниках. XVII-XIX веков. СПБ. 1998. Т .2. С. 351.)

図３．Духовные отцы Выговского общежительства. Петр Прокопиев, Андрей и Семен Денисовы, Данил Викулин, инок Корнилий, инок Филарет. Прорись с изображения XVIII в. ГМИР, Б-7344-IV, 42. (Маркелов Г. В. Святые древней Руси... С. 353.)

図４．Священномученик Аввакум. Начало XVIII в. 14,6 x 12,5. ГИМ. (Юхименко Э. М. (ред.) Неизвестная Россия... С. 67.)

図５．Данил Викулов, Андрей Денисов, Семен Денисов, Петр Прокопиев. Начало XIX в. Неизвестный художник. Чернила, темпера.43 x 34.1. ГИМ. (Итокина Е. И. Руский рисованный лубок...С. 55,165.)

図６．Никифор Семенов и Семен Титов. Середина XIX в. Неизвестный художник. Чернила, темпера 13.4 x　43.2. ГИМ. (Итокина Е. И. Руский рисованный лубок... С. 53,165.)

図７．Семен Денисов, Иван филиппов, Данил Викулов. Район Печеры, середина XIXв. ГИМ. (Юхименко Э. М. (ред.) Неизвестная Россия... С. 67.)

《主要参考文献》

Аверинцев С. С. (ред.) Христианство. Энциклопедический словаль. Т. 1,2. М., 1995.

Винокурова Э. П. Медные литые иконы патрональных святых Выговских наставников. // Художественный металл России. М., 2001.

Вургафт С. Г. , Ушаков И. А. Старообрядчество. Лица, события, предметы и символы. М.,

1996.

Дружинин В. Г. К истории крестьянского искусства XVII-XIX вв. в Олонецкой губернии (художественное неследие Выговской поморской обители) // Известия Академии Наук СССР. М., 1926.

Итокина Е. И. Русский рисованный лубок конца XVIII- начала XX века. М., 1992.

Макарий. История русского раскола, известного под именем старообрядчества. СПБ., 1855.

Маркелов Г. В. Святые древней Руси. Материалы по иконографии. Святые древней Руси в иконописных подлинниках. XVII-XIX веков. СПБ. 1998. Т. 2.

Островский Д. Выговская пустынь и ее значение в истории старообрядческого раскола. Петрозаводск. 1914.

Лексинский летописец. / Публ. Срезневского В. И. // Материалы к истории и изучению русского сектантства и раскола. Под ред. В.Д. Бонч-Бруевича. СПБ., 1908.

Юхименко Э. М. (ред.) Неизвестная Россия. К 300-летию Выговской старообрядской пустыни. М., 1994.

Юхименко Е. М. Выговская старообрядческая пустынь. Духовная жизнь и литература. М., 2002.